



NO.011

# FAS通信

平成16年3月号

株式会社福地建装

上磯町中野通321番地

TEL0138-73-5558

## 温暖地での、高気密・高断熱の必要性

高気密・高断熱という言葉を知ると、北海道や北東北のような寒い地域でのみ必要だととらわれがちです。なぜなら、温暖地に行けば寒冷地のような氷点下の気温になる事は、ほとんどありませんし、積雪もなく、寒いと感じる時期が非常に短いため、我慢することが当たり前になっているのではないのでしょうか。外気との温度差が少ないため、暖房はエアコンもしくは移動式のストーブをつければすぐに温まり、スカスカの住宅でも構わないと思われがちです。しかしどうでしょうか。もし、気密や断熱が北国並みの性能があったら、今以上に少ない費用で暖める事ができ、もしくは、FASのように家の中に熱を溜め込める家になっていけば、長い時間ずーっと同じ温度を保つ事ができるため、より一層のランニングコストの削減と寒さに我慢する事のない家をつくる事ができます。

夏場も同じで、エアコンをフル稼働して外の室外機がぶんぶんフル回転するような状態では、室外機で地球を暖めてスカスカの住宅で冷房しても、すぐに冷気は外に逃げていきます。省エネを考えれば、温暖地といえどもFASのような、環境にやさしい家をつくる必要性があります。

## 省エネルギー

省エネルギーという言葉を知ると真っ先に思い浮かぶのが、ソーラー発電や風力発電ではないかと思えます。確かに地球に優しく、環境にも優しいのですが、良い事とは分かっているにもかかわらず、なかなか予算が合わないという方も多いかと思えます。

しかし、『家から熱を逃がさない』、『家に熱を入れない』、『家から二酸化炭素を出さない』、『ランニングコストをかけない』と言う事も地球環境に優しく、省エネルギーになります。これはまさに「ファースの家」そのものです。

その理由は気密・断熱をしっかりと責任施工で行われており、冷気や暖気・熱を逃がしません。そして、構造体が充填外断熱となっているため熱を家の中に溜め込み、さらに専用蓄熱パネル「タイトプレート」もしくは、砕石に蓄熱させているため、暖かさや涼しさを長時間保つことができます。

また、FAS専用サッシは特殊なガラスの加工で、夏の暑さを家の中に入れず、冷気は逃がさない、逆に冬は寒さを入れず家の暖気は逃がさないサッシになっています。

地球環境に優しい、省エネ住宅。まさに『環境負荷低減住宅』とはまさしく「ファースの家」のことを指しているといっても過言ではありません。

## 蓄熱暖房器の操作について

3月になり、外気温も少しづつ上がって参りましたが、現在、蓄熱量の設定はどの状態でしょうか・・・厳寒期と同じ設定であれば、間違いなく暑すぎる日がありますので、大変ですが、翌日の天候・気温を確認し、蓄熱量の設定を行なってください。